国語 その①

一文一文を丁寧に読み返す習慣を付けよう。

文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書くことに課題が見られました。そこで，本アイディア例では，一文一文を丁寧に読み返す習慣を付け，日常生活や授業において，伝えたいことが相手に明確に伝わるように書いたり話したりする力を身に付けるための指導事例を紹介します。

課題のみられた問題の趣旨と結果

小A5　伝国　3，4年(1)イ(キ)

小A5　正答率　38.2%(県)

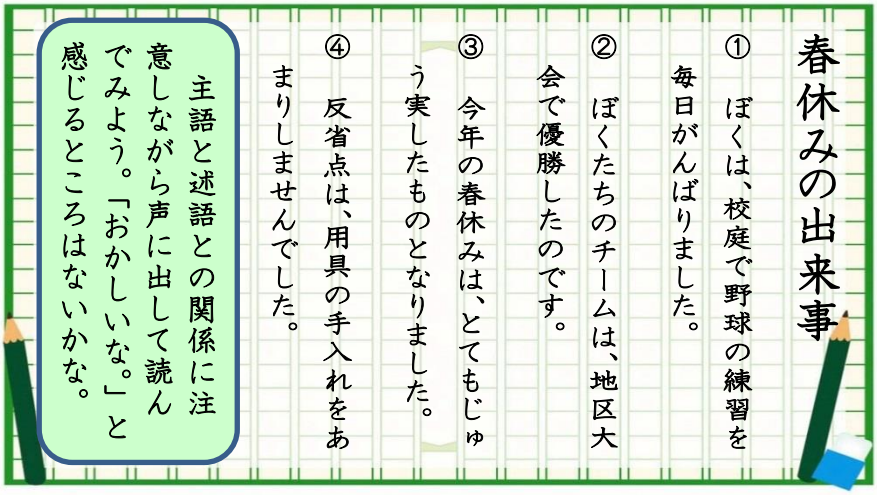
■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　小学校　国語」　Ｐ２５～Ｐ２７
■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　報告書　小学校　国語」　Ｐ３７～Ｐ３９

授業アイディア例

日常生活や授業における「音読」の活用（全学年）

ポイント

自分の声を自分で聞きながら丁寧に読み返せるように指導することが重要です。声に出して読むことで，主語と述語が適切な係り受けの関係となっていないと、相手に正確に伝わらないということに気付くことができます。



ポイント

音読の働きを踏まえ，**意図や目的を明確にして学習活動に位置付ける**ことが大切です。

作文や感想文などの推敲で

○　文章を書く学習では，語句の用法や文の続き方などに注意して音読し，間違いに気付かせ，正しい文章に書き直すように指導しましょう。

自分の考えを話したりまとめたりする場面で

○　音読には，自分の理解を確かめる働きや他の児童の理解を助ける働きがあります。考えを確かなものとするために，声に出して確認するよう指導しましょう。

読書や日記などで（特に低学年）

○　家庭での読書は，音読の取組を取り入れることで一層理解が深まります。同様に，日記を書いたときにも家の人に音読を聞いてもらい，一文一文を丁寧に読み返す習慣が付くようにしましょう。

スピーチや係からのお知らせなどで（特に中学年）

○　児童集会や朝・帰りの会等でスピーチ原稿を書かせたら，話の構成や内容を確かめるために，発表前に教師や他の仲間の前で実際に練習する機会を設け，よりよいスピーチになるようにしましょう。

定着状況の見届け

主述の照応や文と文のつながり，段落関係など指導の意図や目的に応じて適切に表現（話す，書く）されているかどうかを見届けます。不十分な場合は，一緒に声に出して読んだり，書き直す前の文章と比べるようにしたりして児童の気付きを促すことが効果的です。

その他，関連した指導について

○　**「音読・朗読」の指導事項は，小学校段階しかありません。**高学年では，文章の構成や内容を理解して音声化する**「音読」**に加え，思ったことや考えたことを踏まえ，表現性を高めて伝える**「朗読」**をすることが求められます。小学校において「音読・朗読」の指導を確実に行い，中学校の指導につなぐことが必要です。

国語 その②

目的に応じて内容を捉え，考えを明確にしながら読めるようにしよう。

目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られました。そこで，本アイディア例では，着目する観点が異なる仲間と，根拠となる文や語句を明らかにした対話活動を通じて，自分の考えを一層明確にする指導事例を紹介します。なお，本アイディア例は小学校第５学年を対象としています。

課題のみられた問題の趣旨と結果

小Ｂ３　伝記を読み，考えをまとめる（5,6年Cウ）

小Ｂ３二　正答率　52.0％（県）

■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　小学校　国語」　Ｐ５２～Ｐ５９
■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　報告書　小学校　国語」　Ｐ６８～Ｐ７５

授業アイディア例　小学校第５学年「想像力のスイッチを入れよう」（１月頃）

❶　事例の意味を考えながら文章の内容を押さえ，自分の考えをもつ。

学習課題　筆者が必要だと考える，メディア側の努力とはどのようなことだろうか。

ポイント　整理した**筆者の考えと事例との結びつきから**考える。

筆者の下村さんは，「にげるように～」の事例には，事実と印象が混じっているから「冷静に見直す」ことが大切だと書いていたね。ここからは，読む人に**誤解を生まない表現にする**という，メディア側の努力が足りないことが分かるよ。

ポイント　自分の考えの**根拠となる叙述**を示す。

確かに，「印象にすぎない可能性がある。」という下村さんの言葉からも，メディア側に**正確に伝える責任**があるということが分かるな。

ポイント　**複数の叙述を結び付けて**考える。

「他の人に～変更してしまうなどのことが起こった。」という事例では，報道された人が不利益を受けることがないようにと下村さんは言っている。**報道する前に，誰かを傷つける可能性がないか考える**こともメディア側の**責任**と言えるね。

ポイント　**自分の知識や経験と関係付けて**考える。

私はある友達に，「いつも明るくていいね。」って言ったら，実は悩みを隠すためだったということが後から分かって，さみしい思いをさせてしまったことがあるよ。**思い込みや印象を事実のように伝えてはいけない**よね。

ポイント　**対話の内容を生かして**，自分の考えを明確にしていく。

誤解を生まない正確な表現をするだけではなく，**思い込みの記事で誰かを傷つけることをしないようにする努力**がメディア側には必要だと言えそうだね。

❷　学習課題を踏まえ，自分の考えをまとめる。

定着状況の見届け

考えを書きまとめる際には，上記の５つのポイントを踏まえて記述したり，経験したことを具体的に記述したりするよう指導しましょう。また，授業の振り返りでは，筆者の意図や思考を想定して，自分の立場から書かれている内容を読むという読み方によって，学びが深まったことを価値付けることが大切です。

その他，関連した指導について

○　目的に応じて文章の内容を捉えるには，児童に対して，単元に設定した言語活動（話し合う、意見文を書く等）を踏まえて，**何のために，何を知りたいのか，どのような情報が必要なのかという目的を明確に示し**，一人一人がその目的を意識して読むことができるよう指導することが大切です。

国語 その③

辞書を活用して，一人一人の語感を磨き語彙を豊かにしよう。

語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使うことに課題が見られました。そこで，本アイディア例では，読むこと領域の学習において，語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を考えたり，類似する語句を調べて比較したりするなど，語句の量を増し，語彙の質を高める指導事例を紹介します。なお，本アイディア例は，中学校第１学年を対象としています。

課題のみられた問題の趣旨と結果

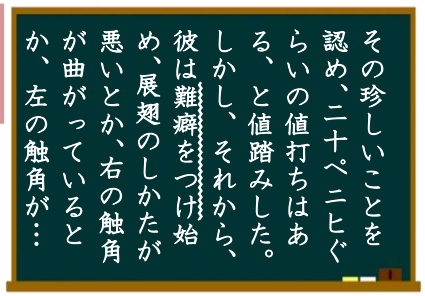
中Ａ８　伝国１年（1）イ（ウ）

中Ａ８三エ　正答率　28.1％（県）

■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　中学校　国語」　Ｐ４３～Ｐ４５
■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　報告書　中学校　国語」　Ｐ５１，Ｐ５５～Ｐ５８

授業アイディア例　中学校第１学年「少年の日の思い出」（１月頃）

ポイント　文章を解釈する上で必要となる語句を**意図的に取り上げ，辞書を活用**して，語句の**意味**や**用法**，**類語**について理解します。



言語に対する知的な認識

❶　「難癖」という語句の意味を理解する。
- ○　辞書的な意味…非難すべき点，欠点
- ○　類似する語句…あげ足をとる，言いがかり，文句

❷　「難癖をつける」という慣用句の意味と使い方を理解する。
- ○　ささいな欠点を見つけて大げさにとがめる。

「エーミール」が「僕」のコムラサキについて評価している様子を表すのに，訳者は敢えて「難癖をつける」という言葉を選んでいます。そのことから，「エーミール」自身の考え方や感じ方，「僕」の「エーミール」に対する思いをつかむことができそうですね。

言語に対する豊かな感覚

❸　語句の辞書的な意味・文脈上の意味を基にして，表現の仕方や場面の展開を踏まえて解釈に生かす。

（1）　「難癖をつける」という言葉は，「ささいな欠点を見つけて『大げさにとがめる』」ということだから，「エーミール」がちょうの収集については，ちょっとした欠点すら許せないという考え方をしていることが分かるね。

（2）　類語に「言いがかり」という言葉があるけれど，「僕」にとっては，まさに予想外のことだったんだろうね。

（3）　訳者の高橋さんは，「文句をつける」とは書いていないね。「僕」が苦々しい思いで「エーミール」の言葉を聞いていることが伝わるな。

（4）　「難癖」は，辞書では「欠点」という意味なのに，この後の表現では，「もっともな『欠陥』を発見した」と書いてあるね。そのあとさらに，「僕は，その『欠点』を～」とあるよ。「僕」と「エーミール」との間に受け止め方の違いがありそうだ。「欠点」と「欠陥」の意味の違いを調べてみようよ。

他に適切な表現がないかを考えたり，**複数の語句を比べて**どれが最もふさわしい表現かを**検討**したりすると効果的です。　**ポイント**

定着状況の見届け

考えをノートにまとめたり，話し合ったりする際には，記述されている言葉の意味をどのように捉えているのか見届けます。また，理解が不十分な生徒には，具体的な語句を指し示して辞書を引くよう指導したり，該当の語句を使った短文を作って，受ける印象を基に考えるよう指導したりすることも効果的です。

その他，関連した指導について

○　小学校からの積み上げを踏まえ，第１学年では「辞書的な意味と文脈上の意味との関係」，第２学年では「類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句」，第３学年では「慣用句や四字熟語など」を学習します。**意味の微妙な違いや微妙なニュアンスなどを知り，語感を磨く**よう指導しましょう。

国語 その④

書き手の意図を踏まえて，表現の工夫とその効果を考えよう。

目的に応じて文章を読み，文章の構成や展開，表現の効果について自分の考えをもつことに課題が見られました。そこで本アイディア例では，文章の構成や論の展開に着目して，書き手の意図やその効果について自分の考えをもつ指導事例を紹介します。なお，本アイディア例は，中学校第２学年を対象としています。

課題の見られた問題の趣旨と結果

中Ｂ１　文章の構成や展開について自分の考えをもつ（１年Ｃエ）

中Ｂ１二　正答率　66.0％（県）

■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　中学校　国語」　Ｐ５６～Ｐ６１
■「平成３０年度　全国学力・学習状況調査　報告書　中学校　国語」　Ｐ６６～Ｐ７２

授業アイディア例

中学校第２学年「モアイは語る－地球の未来」（９月頃）

❶ 論の展開の仕方や説得力のある述べ方の工夫について，どのような効果があるかを考え，ノートに書く。

学習課題　**筆者の安田さんは，どのような意図で論を展開し，述べ方を工夫しているのだろう。**

❷ **書き手の意図を踏まえて**構成や展開，表現の特徴を捉え，その工夫と効果についての考えを交流する。

ポイント　**「文章の構成」**に着目（文章の組立てを静的に捉える）して**効果**を考える。

筆者の**安田さんは**，最初の段落でモアイに関する疑問を四つも提示しているね。その上で，後に続く各段落で疑問を一つずつ解決し，最後の段落で一番伝えたい「『有限の資源』の『効率』的な『利用』」に結んでいるよ。読み手の興味が途絶えないようにして，最後まで読ませる効果があるね。

ポイント　**「論の展開」**に着目（思考の流れに沿って動的に捉える）して**筆者の意図**を考える。

それは尾括法と言うのよ。書かれている事例をつないで考えてみると，まず，中学生でも聞いたことのある「イースター島のモアイ」消滅の秘密を解き明かして，その上で，「根本的な問題」を提示しているね。次に，身近な日本の様子につないで，読み手に問題意識をもたせているよ。だから，最後に，「地球」のことと「イースター島」での出来事とつなげても全く不自然ではないね。この工夫には，読み手である私たちに，他人事ではなく，自分たちの問題として感じてほしいという安田さんの願いがあるように思うな。

ポイント　**「特徴のある表現」**にも着目（簡潔・丁寧・断定・婉曲などの述べ方，事実と意見との関係や比喩など）し，筆者の主張を捉えることにつなぐ。

なるほど。「絶海の孤島のイースター島」や「広大な宇宙という漆黒の海にぽっかりと浮かぶ青い生命の島，地球」という比喩表現も，置かれた状況がどちらも同じだということを分かりやすくしているだけではなくて，「生命の島」と既にそうではなくなった「島」との対比から，読み手に何かを考えさせようとしているのかもしれないな。

❸ 交流の内容を踏まえてノートに書きまとめ，自分の考えを確かなものにする。

定着状況の見届け

「文章の構成」や「論の展開」，「特徴のある表現」等，自分の考えを支える根拠となる段落や部分が挙げられているか，「筆者の意図」や「表現の工夫」を踏まえた自分の考えが述べられているかを見届けましょう。生徒には，事前に何を観点にして書きまとめるかを明確にして指導することが大切です。

その他，関連した指導について

○　文章の構成や展開，表現の特徴について，第１学年では「自分の考えをもつこと」，第２学年では「根拠を明確にして自分の考えをまとめること」，第３学年では「評価すること」を指導します。

各学年の発達の段階を踏まえて文章を読む目的を明確にし，**どのような力を付けるのかを生徒自身が自覚して，意識的に文章を読む**よう指導することが重要です。